

晴れたらいいね

新品種の誕生

毎年7月下旬ごろから、稲の交配を行います。新品種の育成はここから始まり、交配によってできた種の中から、食味が良く、収量が高い、優れた品種を選びます。「ひやくまん穀」もこのようにして誕生しました。

(写真:農林総合研究センター 水内友美子)

目次

特集 石川県における GAP推進の取組み

特集

石川県におけるGAP推進の取組み

P2

現地ルポ

石川、県央、奥能登

P4

中央普及支援センターだより

P5

行政情報

P6

研究ノート

P8

いしかわ

農業振興協議会だより

P10

いしかわ

農業総合支援機構だより

P11



石川県における GAP推進の取組み

農業安全課 向瀬 直美

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技大会の選手村等で提供される食材について、GAPの認証取得が要件となったことや、一部の大手小売企業で、民間の認証制度である「グローバルGAP」等を取引要件として求める動きがあること等から、県内でもGAPへの関心が高まっています。今回、本県におけるGAP推進の取組みについてご紹介します。

1 GAP（農業生産工程管理）とは

GAP（ギャップ）とは、「Good Agricultural Practice」の頭文字をとったもので、直訳すれば「良い農業の実践」です。一般にチェックシートの項目を自己点検するイメージが強いGAPですが、「良い農業の実践」とは、どういうことでしょうか。

農家の皆様は、日頃から自身の農場の経営が成り立つよう、合理的な判断に基づき農場管理を行い、創意工夫を重ねています。この点では、すべての方は「良い農業」に取り組んでいると言えます。しかし、出荷物に対してのクレームや、農作業中のケガ、それらにつながるヒヤリとした経験は誰もがありませんか。

GAPは「安全な農産物の生産」、「環境の保全」、「農業者の安全確保」の視点で、農場管理に潜む危険を考えることが、極めて重要となります。その上で、自己の農場に合った管理ルールを明確にし、農場に

目的	取組例
<p>①安全な農産物の生産</p> <p>②環境の保全</p> <p>③農業者の安全確保</p>	<p>安全な農産物の生産</p> <div data-bbox="810 1460 1114 1720"> <p>農業の適正な保管</p> </div> <div data-bbox="1136 1460 1481 1720"> <p>コンテナの洗浄</p> </div> <p>農業者の安全確保</p> <div data-bbox="810 1818 1002 2078"> <p>危険箇所の掲示</p> </div> <div data-bbox="1018 1818 1481 2078"> <p>適正な防護具</p> </div>

出典(写真)：農業生産技術研究所「GAP取組支援7ヶ年へ」
農林水産省 Web #1(http://www.maff.go.jp/j/wpaper/w_maff/h20_h/summary/zoom/zoom_01.html)
全農 Web #1(http://www.zennoh.or.jp/operation/sikumi_nouyaku.html)

関わるすべての作業員で実践することが必要であり、持続性の高い安定した農業経営につなげるための農場管理手法が GAP なのです。

2 GAP を実践するには

良い農業として望ましい農場の状態を示したものを「GAP 規範」や「GAP 基準書」といいます。農家自身が改善すべき点をはっきり認識するためには、この規範に基づき取り組むことが、GAP 実践の近道です。しかし「GAP 規範」を必ずしも覚える必要はありません。

県では、JA と連携して「石川県 GAP 推進協議会」を設立し、県の普及指導員や JA 営農指導員を GAP 指導員として育成しています。GAP 指導員は、GAP 規範を理解し、個々の農場に合わせた管理方法についてアドバイスをを行います。

関心がある方は、普及指導員や営農指導員に相談し、実際に農場を見てもらうことから始めましょう。指導員と一緒に農場管理の検討を重ねることで、GAP を理解し実践することができます。

3 県版 GAP (農産物)、GAP 取得チャレンジシステム (畜産物) の実践を

民間認証を取得・維持するには、審査等に毎年 10 ～ 20 万円程度の費用がかかります。そのため、認証農場は、農業法人や複数農家による団体認証を中心に認証取得が進んでいるのが現状です。

「認証を受けることが難しいから GAP はできない」との声を聞くことがありますが、「GAP 認証 (GAP をとる)」と「GAP の実践 (GAP をする)」は別です。民間認証を取得しなくても GAP は実践可能です。

県では、平成 24 年に策定した県版 GAP (農産物) を、初心者でもわかりやすく実践しやすい内容に見直すことにしました (平成 30 年 3 月策定予定)。また、畜産物でも、昨年からは初心者向けである「GAP 取得チャレンジシステム」が公益社団法人中央畜産会により運用されています。

県では、県版 GAP や GAP 取得チャレンジシステムを GAP 実践の入門編として位置づけ、県下全域に広く普及を図ることで GAP を身近なものにし、各産地の生産部会や意欲ある農家の皆様が実践できるよう、JA と連携しながら支援してまいります。

環境にやさしい農業



畦シート



防虫ネット

農場管理の適正化



組織図と責任者の明確化



農場外の第三者による点検

効果

①信頼性の向上

農場ルールの明確化や記録の徹底により、消費者等への的確な情報提供が可能となり、産地の評価や信頼性の向上につながります。

②農業経営の改善

- 整理整頓などにより無駄の排除
- 改善活動による経営の効率化
- 後継者の育成確保

③農産物等の品質向上

栽培や出荷調製時の品質低下のリスク軽減等を図ることにより、結果として農産物の品質向上や安定化につながります。

GAP について県 HP はこちら

<http://www.pref.ishikawa.lg.jp/no-an/oshirase/gap-corner.html>

現地の声

白山麓の生業創出に向けた羊の飼育

石川発

石川農林総合事務所では、平成26年度から県立大学等の関係機関と連携し、白山市木滑地区の耕作放棄地を活用した羊の放牧を実施しています。この放牧によって白山麓の耕作放棄地の解消だけでなく、地域の活性化や景観の改善、獣害の軽減などの成果が得られています。また、県内のレストランの協力により開催した試食会では、その肉質が高い評価を得ました。

この取組みの成果によって、白山麓の豊かな自然を生かして羊を飼育し、羊肉や羊毛フェルトなどの生産を行い、地域を活性化させようという気運が高まり、平成28年6月に地区住民等により「白山麓羊推進協議会」が結成されました。



一里野温泉スキー場での放牧

当協議会は、平成28年11月に「いしかわ里山振興ファンド」を活用し、白山市瀬木野の旧酪農家の畜舎に雌10頭、雄1頭の羊を導入しました。

平成29年5月には木滑地区と一里野温泉スキー場で雌羊の放牧を開始し、その後9月には雄羊も放牧して交配させました。11月以降は、再び畜舎に戻して飼育しており、平成30年1月以降、子羊が次々と誕生しています。

今後は、産まれた雄羊は羊肉用として肥育し、雌羊は繁殖候補羊として育成することで、羊の頭数を徐々に増やし、安定的な羊肉出荷と羊毛フェルト生産などに取り組んでいく予定です。



母羊と誕生した子羊

牛舎内換気方法の改善による乳用牛の暑熱ストレス軽減

県央発

河北潟酪農団地の多くの牛舎では、牛舎内に等間隔に大型換気扇を設置して送風する「リレー換気」(図1)を取り入れています。近年の夏季の高温時には牛舎内に熱が滞留し、暑熱ストレスによる乳用牛の飼料摂取量や産乳量、受胎率の低下が課題となっています。

このため、一部の酪農家において、牛舎奥の換気扇で強制的に排気する「トンネル換気」を試験的に導入したところ、乳用牛尻側(対尻式牛舎の中央通路)に強い風が吹き、熱の滞留は改善されました。

換気法による牛舎内の風速の違い (単位: m/s)

換気方法	中央通路	左右通路
トンネル換気	3.5 ~ 5.9	0 ~ 1.4
リレー換気	1.3 ~ 2.8	0.4 ~ 0.7

しかしながら、暑熱ストレス軽減効果が高い乳用牛頭部側(左右通路)は微風程度であったことから、津幡農林事務所と県立大学は、トンネル換気している牛舎入口に、新たに衝立を設置して風を分散させる「振り分け方式」を酪農家に提案し、その効果を検証しました。

その結果、①振り分け方式は、中央通路と左右通路に風速2m程度の風をバランスよく振り分けることができ、②さらに左

右通路に等間隔に衝立を置くことにより(図2)、乳用牛の頭部から肩周辺にかけての前駆付近に風を当てることができました。風速2mの風を牛体(特に前駆付近)に当てると体感温度が約8度下がると言われており、実際に今回検証した酪農家においては、通常、夏季に減少する産乳量がほとんど減少しないなど、暑熱ストレス軽減効果があることがわかりました。

衝立は自前で簡単に作ることができ、設置も容易です。導入費や維持費も安価ですので、是非、導入をご検討ください。今後、事務所ではこの取組みを普及していきます。

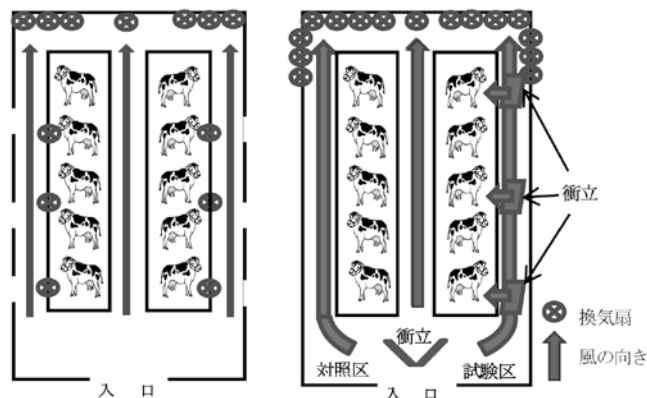


図1 従来方式(リレー換気) 図2 振り分け方式改良型

奥能登農林総合事務所では、平成 22 年からグリーンアスパラガス（以下、アスパラガス）の新産地づくりを生産者、JA 町野町、輪島市とともに取り組んでいます。

アスパラガスは、軽量で高齢の生産者でも扱いやすく、高単価な品目であり、これまでも金沢市場等から県産品が求められていましたが、県内でのアスパラガスの栽培は、茎枯病の多発により定着しませんでした。



立茎栽培（7月頃の状況）

りっせい
*立茎栽培：春のアスパラガス収穫後に株当たり5本程の芽を育て（立茎）、防除や整枝などの栽培管理を行い、株を養成しながら、4～10月まで収穫を続ける栽培法

そこで、当事務所では、病害対策と長期出荷を目指して、国内の主要産地で行われている「立茎栽培」を、野菜農家及び水稲農家に導入・推進し、生産者への栽培指針の提示や県外先進地研修の実施による、技術の習得・向上などを支援しています。

また、輪島市の事業を活用して防除機5台を整備し、茎枯病の予防防除を励行するとともに、自動選別機、結束機を事業導入し、共同選別体制の整備による出荷労力の軽減、生産拡大を進めました。

これらの取り組みにより、平成 27 年には販売額 1 千万円を達成しました。

平成 29 年には、これまでの予冷庫での荷受けに加え、保冷車による出荷を開始し、集荷から金沢市場まで保冷する鮮度保持体制を確立しました。これにより、高鮮度のまま市場に送ることが可能となり、販売単価は前年より約 1 割高の 138 円/100g へと上昇しました。

夏期の干害対策では、太陽光パネルを利用した自動かん水装置による生育促進と省力化を実証し、平成 30 年には、生産者 2 戸が導入を予定しています。

今後もアスパラガス産地の生産振興を、関係機関と連携して取り組んでいきます。

中央普及支援センターだより

日本なし「加賀しずく」の市場デビューを支援

平成 29 年 8 月、県が 16 年かけて開発した日本なし「加賀しずく」が金沢市中央卸売市場でデビューしました。日本なしは、本県の果樹品目のうち最も多く栽培されているものの、産地縮小が続いています。この現状を打破する切り札として登場したのが「加賀しずく」です。

開発当初、産地や流通の関係者からは、「果肉が軟らかくシャリ感がない」など、従来の日本なしとは特徴が異なることを懸念する声も聞かれましたが、試食した消費者の方からは「なめらかな口当たりが美味しい」と新しい食感が高く評価され、平成 25 年度から本格的な栽培が始まりました。

当時はまだ、品種特性に応じたきめ細かい栽培技術が確立していなかったため、当センターでは、農林総合事務所及び農業試験場の担当者からなる生産拡大プロジェクトチームを立ち上げ、栽培マニュアルの作成、現地での栽培実証などにより、本品種の速やかな普及を図りました。

さらに、平成 28 年度からは、商品規格の決定、集出荷体制の整備や市場デビューに向けた PR 活動への支援も開始しました。

このような一連の取り組みが実を結び、平成 29 年度の出荷量は目標の 5 トンを超え、平均卸売価格は通常の日本なしの 2 倍以上と非常に高い評価を受け、上々のデビューとなりました。

一方、厳しい糖度基準の設定により、生産された果実の約 3 割が規格外品となりました。現在、高糖度の果実を生産するための栽培ポイントが農業試験場によって明らかにされつつあることから、今後は糖度基準の達成率アップに向けて産地を挙げて取り組んでいきます。



合同現地巡回で果実の成り具合を点検

● 『農村役立ち隊』 が里山保全活動をお手伝い ～いしかわ農村ボランティア～

里山振興室 岡部 恵

1 中山間地域の里山保全活動を支援します

過疎・高齢化で人材の確保が困難となっている中山間地域において、集落の方が行う草刈り等の里山保全活動に対し、ボランティアを派遣する「いしかわ農村ボランティア制度」をご存じでしょうか。



水田畦畔・農道の草刈り

2 いしかわ農村ボランティアとは

県では、平成 22 年度に「いしかわ農村ボランティア窓口」を開設し、農村でのボランティア活動を希望される方を「農村役立ち隊」、ボランティアを受け入れる集落を「受け入れ隊」として登録し、双方による協働活動を通じて、元気な里山里海づくりを推進しています。年間活動回数は約 30 回で、延べ 500 ～ 600 人の「農村役立ち隊」が参加されています。

3 主な活動内容

水田畦畔や農道、休耕田等の草刈りのほか、農作物の定植や収穫、獣害防止柵の設置などを行います。



獣害防止柵の設置

4 ボランティア参加者からの感想

「農村役立ち隊」はリピーターが多く、「これからも石川の農林業や農村を応援したい」「ボランティア活動を通じて、受け入れ地区の皆さんと交流したい」などの声をいただいております。

5 農村ボランティアの受け入れ方法

「農村役立ち隊」の受け入れを希望される集落の方は、「受け入れ隊」への登録が必要です。申請の手続き等については、以下へお問い合わせ下さい。

【お問合せ先】石川県農林水産部 里山振興室 里山振興グループ（担当 岡部、八木）
(TEL 076-225-1631) まで

県 HP で制度の詳細を公開しています ☎ <http://www.pref.ishikawa.lg.jp/satoyama/borantia/index.html>

● いしかわの“特別栽培農産物”認証制度について ～環境にやさしい安全・安心な農産物をアピールしませんか～




生産流通課 三門 奈里子

県では、農薬や化学肥料の使用を控えた環境にやさしい農業（環境保全型農業）を、環境負荷を減らし生態系の保全に役立つ農業として従来から推進しており、環境にやさしい農業を行う農業者を応援し、生産された農産物に表示が行えるよう、エコ農業や有機農業に関する認定を行っています。

近年では、農薬を減らすなどのこだわりを持って生産された農産物を求める消費者が増え、環境にやさしい農産物への関心がますます高まっています。

また、「能登の里山里海」の世界農業遺産認定などを背景に、農薬や化学肥料の使用を通常の5割以上減らした“特別栽培”の取組みが増加しており、県による認証が求められていました。

そこで、県では特別栽培農産物の付加価値の向上を目指し、平成29年3月に、新たに特別栽培農産物の認証制度を立ち上げました。

種類	エコ農業	特別栽培	有機農業
概要	<ul style="list-style-type: none"> 化学肥料3割以上低減 化学合成農薬3割以上低減 たい肥などで健全な土づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 化学肥料5割以上低減 化学合成農薬5割以上低減 	<ul style="list-style-type: none"> 化学肥料・農薬を使用しない 2年以上、化学肥料や化学農薬を使用していないほ場 遺伝子組み換え技術を利用しない
表示マーク			



石川県特別栽培農産物認証マーク

特別栽培農産物認証制度のポイント

対象者：個人、法人及び団体
 認証基準：① 農林水産省が定めた「特別栽培農産物に係る表示ガイドライン」に基づき、生産、出荷管理、及び表示等が行われていること
 ② 石川県版 GAP に取り組んでいること
 審査：書類審査及び現地確認結果に基づき認証
 認証時期：年4回（7～8、10、1、4月）※申請時期にご注意ください



栽培管理等の現地確認の様子

平成29年度は、1月時点で、32の個人や団体から申請があり、水稻をはじめ、トマトなどの野菜、ゆずなどの果樹、計58件を認証しています。

特別栽培農産物の認証は、消費者からの信頼確保に加えて、農産物のブランド力強化につながることを期待されます。県では、今後も認証制度のPRなど環境にやさしい農業を推進していきます。

ご不明な点は下記お問合せ先までご相談ください。

【お問合せ先】最寄りの農林総合事務所、もしくは生産流通課
(TEL 076-225-1622) まで

県HPで制度の詳細や認証状況を公開しています <http://www.pref.ishikawa.lg.jp/nousan/tokusai/tokusaininsyo.html>

「おいしい能登牛」のオレイン酸含有率向上への取組み

—なまこめ生米ぬかのペレット化—

農林総合研究センター 能登畜産センター 石田 美保

1 背景・目的

牛肉は一般的に、口溶けや口の中での広がりが高く、滑らかで、脂っぽさが早く消えるものが好まれています。脂肪酸の中でもオレイン酸の割合が高いと、脂肪の融点が低くなり、良質な脂肪になります。県が生産体制を整えている能登牛は、オレイン酸が多く含まれることから、脂肪がやわらかく、口当たりが良いのが特徴です。

畜産試験場では、オレイン酸を多く含む「生米ぬか」を肥育後期に給与（配合飼料原物の5%を給与）することで、脂肪中のオレイン酸含有率が向上したことを報告しています。しかし、生米ぬかの常温保存は脂肪の劣化が著しく、農家での給与は難しいため、普及には至っていません。そこで、生米ぬかの保存性を高め常温保存を可能にするため、米ぬかの固形（ペレット）化に取り組みました。

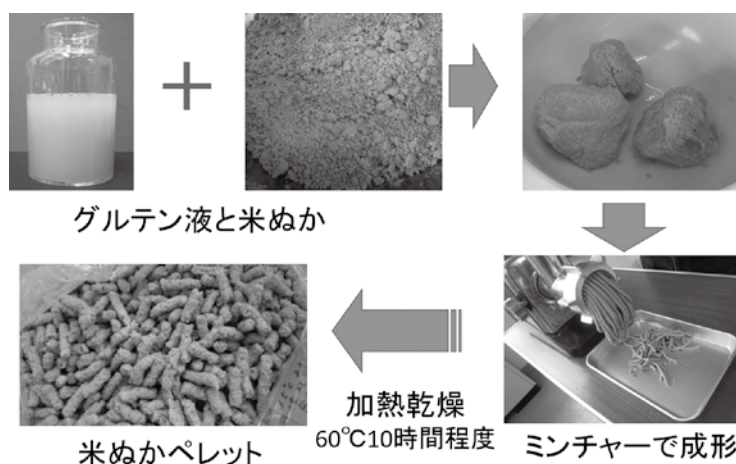


図1 米ぬかペレット製造方法

2 生米ぬかのペレット化と保存性

米ぬかのペレット化は他県でも取組みがなされていますが、当场では、県の名産品である「加賀麩」の原料であるグルテンを製造する際に発生する副産物（以下、グルテン液）を利用した製造方法を検討しました（図1）。

保存性の確認のため、生米ぬか（粉末）、米ぬかペレット（蒸留水）、米ぬかペレット（グルテン液）をポリバケツに入れ牛舎内に放置し、12週間観察しました。その結果、蒸留水で製造したペレットは3週目に変敗したのに対して、グルテン

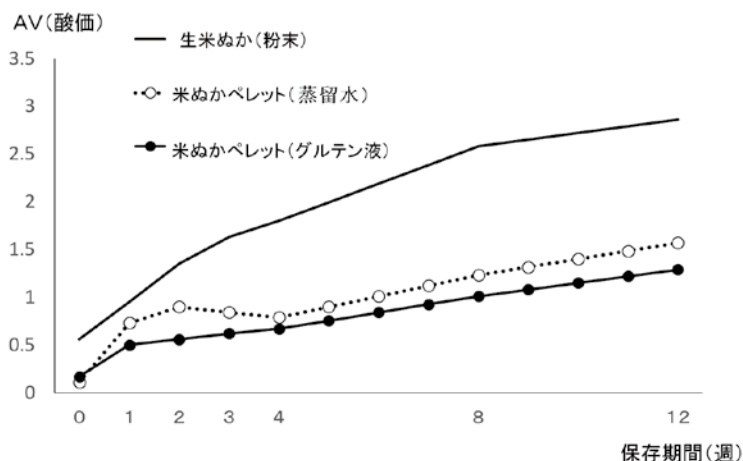


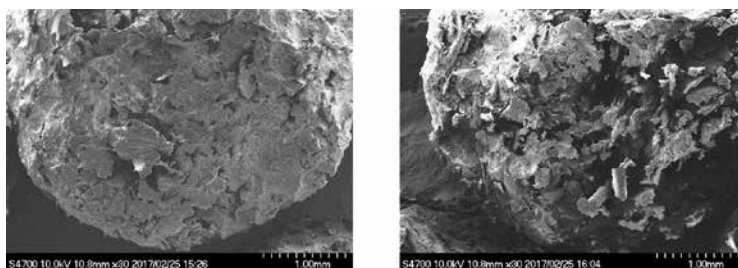
図2 米ぬかペレット酸価の推移のグラフ

液で製造したペレットは崩れることもなく、変敗もありませんでした。

また、経過時間と酸価（AV）の関係性は図2で示すように、グルテン液を利用した米ぬかペレットが、蒸留水を利用したもの比べて酸価値の上昇が穏やかで、保存性が良いことがわかりました。

グルテン液と蒸留水で製造した米ぬかペレットの断面を、電子顕微鏡により写したそれぞれの画像を図3に示します。グルテン液に含まれるグルテンが米ぬかをコーティングしつつ、米ぬか同士を吸着することで、急激な酸化を防ぎ、保存性が高まることがわかりました。

さらに、ペレットと生米ぬかを給与した牛のオレイン酸含有率を調べたところ、差が認められないことから、ペレットがオレイン酸含有率の向上に寄与し、さらに生米ぬかと比べ保存性に優れる飼料であると示されました。



グルテン液で製造した米ぬかペレット

蒸留水で製造した米ぬかペレット

図3 米ぬかペレットの電子顕微鏡写真

給与牛のオレイン酸含有率（畜産試験場給与結果）

ペレット給与牛：55.8%（雌3頭）、生米ぬか給与牛：55.6%（雌2頭）

3 成果の活用と留意点

米ぬかとグルテン液の混合割合は、グルテン液の割合が多いほどグルテンの量が増え、保存性が高まると考えられましたが、それに伴い水分が多くなり、成形が困難になります。今回の手法では米ぬかに対し、重量あたり半量のグルテン液の添加が最も成形しやすく、牛の嗜好性も良好でした。

今回の試験では、試作品としてほぼ手作業でペレットを製造しましたが、効率よく生産するにはペレット製造専用機械の利用が不可欠です。

今後、能登牛の特長としているオレイン酸含有率の更なる向上のために、「石川県産米ぬか」と名産品「加賀麩」製造副産物である「グルテン液」の利用が期待されます。

いしかわ農業振興協議会だより

平成29年度 中核農家経営改善・事業多角化及び地域農業振興共励会受賞者決定!

いしかわ農業振興協議会

平成30年2月28日、農業試験場第1・2会議室において、平成29年度いしかわ農業振興協議会研究発表大会が開催されました。

大会に先立ち、北井県参事より中核農家経営改善・事業多角化及び地域農業振興共励会受賞者の発表が行われ、各受賞者が自身の経営について紹介を行いました。

[中核農家経営改善・事業多角化共励会受賞者の概要]

【優秀賞】 (知事賞)	「着実な経営発展で地区をリードする大規模集落営農組織」 農事組合法人あぐりあさひ 代表理事 北中 博之氏 (川北町朝日)
【経営類型・規模】	水稻 42ha、大麦 10.7ha、大豆(大麦跡) 1.5ha、玉ねぎ 0.6ha
【労働力の構成】	基幹構成員4人、その他構成員 10人
【経営の特徴】	能美地区で初めて任意組織から法人化した集落営農で、地区の中で経営面積が最大であるほか、他に先駆けて園芸複合化を開始するなど、地区を代表するモデルである。育苗作業の集約や作業体系の見直し、農地の集約、圃場の団地化、自前での機械整備等によるコスト削減を達成し、米価下落による厳しい経営環境の中でも安定した経営を実現している。
【優秀賞】 (知事賞)	「100年に渡り持続的発展を目指した農業経営の実践」 農事組合法人 One 代表理事 宮野 一氏 (金沢市才田町)
【経営類型・規模】	水稻 36.2ha、れんこん 3.8ha、にんにく 0.8ha
【労働力の構成】	基幹構成員3人、常時雇用7人、臨時雇用のべ 270人・日
【経営の特徴】	法人設立当初から雇用体制の充実を図り、トヨタの生産工程管理手法「カイゼン活動」の導入による作業改善や、省力化技術の導入・作業工程の効率化による労働時間の削減に継続的に取り組んでいる。これにより捻出された余剰労力を活用し、にんにくなどの新品目を導入することで、経営基盤の強化を図っている。

[中核農家地域農業振興共励会受賞者の概要]

【優秀賞】 (知事賞)	「白山麓農業を牽引! 革新続ける集落営農法人」 農事組合法人んなーがら上野営農組合 代表理事 中西 盛重氏 (白山市上野町)
【経営類型・規模】	水稻 26.4ha、大麦(種子) 3.5ha、そば 7ha、にんじん 0.5ha
【労働力の構成】	基幹構成員3人、その他構成員4人、臨時雇用のべ 375人・日
【取組みの特徴】	山間地域である鳥越地区で他に先駆けて法人化し、乾田V溝直播栽培の導入等による「合理的な営農システム」の実践や、そばや種子大麦の作付による地域農業の振興、「雪下にんじん」の生産による新しい園芸産地づくりに取り組み、他の組織の模範となっている。また、交流人口の拡大を試みるイベントの企画・運営を行い、地域の活性化にも挑んでいる。
【優秀賞】 (知事賞)	「能登の地で、仲間を育み地域を担う、園芸プラス水稻経営」 山上 康氏 (羽咋市粟生町)
【経営類型・規模】	すいか 5ha、だいこん 5ha、水稻 8ha
【労働力の構成】	家族労働3人、臨時雇用のべ 1,160人・日
【取組みの特徴】	露地野菜では県下で屈指の大規模経営を実践し、栽培管理技術の改善や優良品種選定のための試験を実施して部会でデータ共有を行い、産地として品質向上を図るなど、地域全体のレベルアップに貢献している。JAはくいそさい部会長としてリーダーシップを発揮しているほか、後継者の育成にも尽力しており、地元での信頼は厚い。
【優秀賞】 (知事賞)	「組織設立から40年、地域農業を守り経営発展を続ける農業法人」 粟蔵水稻株式会社 代表取締役 宇羅 恒雄氏 (輪島市町野町)
【経営類型・規模】	水稻 26.8ha、作業受託 4.5ha、エアリーフローラ 2a
【労働力の構成】	基幹構成員1人、その他構成員9人、臨時雇用のべ 378人・日
【取組みの特徴】	「地域の農地を守る」観点から小区画は場でも積極的に受託しており、地域の信頼は厚い。また、粟蔵集落を中心とする9地区で「人・農地プラン」の中心経営体として位置づけられており、着実に農地の集積を進めている。地域に先駆けて特別栽培米の生産を始め、独自ブランドを環境にやさしい差別化商品として直販しており、能登棚田米や能登米の先導的なモデルとなった。

(平成28年度実績)

いしかわ農業総合支援機構だより

いしかわ耕稼塾『企画管理力向上セミナー』 ～必要な人材の戦略的確保～

近年、雇用情勢は売り手市場であり、経営の多角化や規模拡大を目指す農業経営体にとって、必要な人材の確保・育成が喫緊の課題となっています。一方で、雇用に関するトラブルが多く発生しており、当機構への相談件数も増加しています。

このため当機構では、1月から『企画管理力向上セミナー』を開講し、人材のマネジメント、職場でのコミュニケーションの在り方、労働契約や就業規則の整備など、必要な講座を選択して受講いただきました。

受講者からは「明るく、安心して働ける職場にしていきたい」「社内ルールや服務規程を明示しようと思う」といった前向きな感想をいただいています。

「求人を出しても応募がない」「若い社員がすぐに辞めてしまう」などお困りの方、雇用導入を検討している方、必要な人材をどのように確保していくか一緒に考えてみませんか。ご不明な点は下記お問い合わせ先までご相談ください。

企画管理力向上セミナーの講座内容

講座名／内容	開講日
人材マネジメント思考（いずれか1回を受講） 人口減少時代における人材採用・定着の考え方のヒント	平成30年1月17日（水） 平成30年1月24日（水）
従業員のモチベーション向上（全3日間） モチベーションアップのための土台作りや動機付けの手法、 承認と権限委譲など	平成30年1月17日（水） 平成30年1月24日（水） 平成30年1月31日（水）
労務管理の理論と実務 働き方改革の内容と労務管理への影響、発生しやすい労使トラブルと 未然防止のポイントなど	平成30年2月14日（水） (2日間の日程を短縮)
社内コミュニケーション術 快適な職場を作るためのコミュニケーションのポイント	平成30年3月6日（火）

<お問合せ先>

(公財)いしかわ農業総合支援機構

担当：窪田、八田

〒920-8203 金沢市鞍月2丁目20番地

石川県地場産業振興センター新館4階

TEL:076-225-7621 FAX:076-225-7622

E-mail:info@inz.or.jp



企画管理力向上セミナーの研修風景

フレッツ光で賢く インターネットを 始めませんか？

ひとつでも
当てはまる方は
お電話下さい。



- 引っ越しの予定がある
- CSTVに興味がある
- インターネットの料金が低い
- インターネットの速度が気になる



※「フレッツ光」とは、「フレッツ光ライト」、「フレッツ光ネクスト」および「Bフレッツ」(いずれもインターネット接続サービス)の総称です。

※NTT西日本の設備状況などによりサービスのご利用をお待ちいただく場合や、ご利用いただけない場合がございます。

※インターネットのご利用には、フレッツ光の契約に加え、別途プロバイダーとの契約が必要です。(別途月額利用料等がかかります。)

詳しい内容・お問い合わせ



NTT西日本販売代理店 株式会社エイエス・コミュニケーションズ



0120-949-388

受付時間:
9:00~21:00 (年末年始を除く)
原稿管理番号: REV0000224

平成 29 年度 農業情報誌「晴れたらいいね」第 2 号 (通巻第 112 号)

[ご意見・ご感想をお寄せください]

平成 30 年 3 月 発行 発行者 石川県農林水産部農業政策課

TEL. 076-225-1661 FAX. 076-225-1618 メールアドレス e210100@pref.ishikawa.lg.jp